



第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会 ランチョンセミナー8

日時

2016年10月30日(日) 12:20~13:20

会場

第5会場 オークラアクトシティホテル浜松 3F チェルシー
静岡県浜松市中区板屋町 111-2

痤瘡治療における十味敗毒湯の可能性について ～BPO製剤との併用はできるか?～

座長

森脇 真一 先生 大阪医科大学感覚器機能形態医学講座皮膚科学 教授

小林 美和 先生 こばやし皮膚科クリニック 副院長

演者

1

そもそも十味敗毒湯とは

古川 福実 先生 和歌山県立医科大学皮膚科 教授

演者

2

十味敗毒湯は痤瘡治療にどう役立つか?

野本 真由美 先生 野本真由美スキンケアクリニック 院長

共催：第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会
クラシエ薬品株式会社

そもそも十味敗毒湯とは

和歌山県立医大皮膚科 教授 古川 福実 先生

紀州和歌山の医聖 華岡青洲 (1760-1835) の作とされる皮膚科関係の薬剤に紫雲膏と十味敗毒湯がある。青洲曰く「治療法には古今なく、古にこだわるものは今に通じない。内科を略しては外科の治療はできない。蘭方をいうものは、理屈ばかりで治療が下手である。漢方をいうものは治療がうまくても歴史にこだわりすぎ進歩がない。」すなわち、治療に関しては柔軟であり、良いと思うものは何でも取り入れるということである。(但し秘密主義的な面があり、記録は少ない)

さて、痤瘡に十味敗毒湯は有効なのであろうか。西洋医学の究極ガイドラインによれば、面皰に対して、他の治療が無効、あるいは他の治療が実施できない状況では、行ってもよいが推奨はしないというC2の位置づけである。炎症性皮膚疹に対しては、他の治療が無効、あるいは他の治療が実施できない状況では、選択肢の一つとして推奨するというC1の位置づけである。



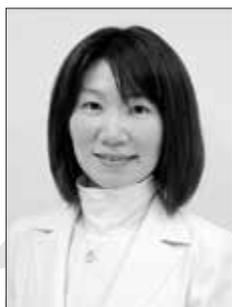
昭和53年 京都大学医学部医学科卒業、同附属病院皮膚科入局
昭和54年 大阪赤十字病院皮膚科勤務
昭和55年 京都大学大学院医学研究科入学
昭和57年 京都大学医学部病理学教室第二講座助手
昭和61年 米国コロラド大学医学部皮膚科 Immunodermatology Fellowとして出張
昭和63年 京都大学医学部皮膚科講師
平成5年 浜松医科大学医学部皮膚科助教授
平成10年 第62回日本皮膚科学会東部支部学術大会事務局長
平成11年 和歌山県立医科大学皮膚科教授 現在に至る

十味敗毒湯は痤瘡治療にどう役立つか？

野本真由美スキンケアクリニック 院長 野本 真由美 先生

十味敗毒湯は化膿性皮膚疾患だけでなく、急性皮膚炎や蕁麻疹、水虫など多岐にわたって効果があることが知られている。臨床ではアトピー性皮膚炎に尋常性痤瘡を合併したり、化粧品による刺激性接触皮膚炎に尋常性痤瘡を合併することがしばしばあり、ステロイドを外用すべきか抗菌剤を外用すべきか迷うこともある。そのような場合には、どちらの疾患にも対応できる十味敗毒湯の内服という選択肢がある。

痤瘡治療は過酸化ベンゾイルの登場により治療の幅が広がったが、一方で皮膚刺激症状が起こりやすく、治療を継続できないこともある。過酸化ベンゾイルやアダパレンの皮膚刺激をいかにコントロールできるかは今後の痤瘡治療の課題と言えるが、ここでも十味敗毒湯が外用剤による刺激性接触皮膚炎を軽減できる可能性がある。今回、基礎データと臨床データからその点について考えてみたいと思う。



平成10年 信州大学医学部卒業
平成10年 新潟大学医学部附属病院皮膚科勤務
平成18年 美容皮膚科の勉強のため米国留学
平成19年 野本真由美スキンケアクリニック開院